

本日はお忙しいところ、ご参加頂き有難うございます。

最初に少しお時間をちょうだいし、本ネットワークの紹介と本日の趣旨説明をさせていただきます。当ネットワークは、大学や研究機関の刊行する雑誌間で、編集や運営上のノウハウ、情報の交換を行ない、図書館関係や出版関係のみなさま、リサーチアドミニストレータの方々などと連携しながら雑誌の運営に利する取り組みを行ってゆけないだろうかとの思いのもと、一昨年冬、本学のリサーチアドミニストレータと学内の雑誌編集関係者数名で始めた小さな集まりです。

この集まりのきっかけは、学術研究支援室のリサーチアドミニストレータ(以下 URA)の方々から Scopus(Elsevier 社による学術雑誌データベース)の申請手続きについて話を聞きに来られたことでした。私は、研究所の刊行する英文学術誌 Southeast Asian Studies のマネージング・エディターをしておりますが、当誌がすでに Scopus に掲載されておりましたので、URA の方々は、他部局の雑誌の Scopus への申請支援にあたり情報収集に来られたのでした。実際、Scopus の申請に際しては、我々も申請のタイミングや書類の準備に手間取ったということもありましたので、あれこれとお話するうちに、雑誌間でなかなかこうした情報交換の機会がないこと、それぞれの雑誌のもつさまざまな経験知やノウハウをうまく共有できないだろうか、という話になりました。

雑誌の運営、編集の現場では、いろいろな疑問や迷いが出てきます。

編集現場は時間雇用の非常勤スタッフや学生で支えられていることも多いのですが、限られた時間の中で校正技術を高めるための学びの機会や、雑誌の編集、公開に必要な IT 技術を学ぶ機会はないだろうか。

オンラインジャーナル化が進み、紙媒体を廃止するか継続するかという話題は、多くの雑誌で定期的に議論に挙がると思いますが、実際のところ紙の雑誌は読まれていないのだろうか、図書館に送られた雑誌はどの程度読まれ、どのように利用されているのだろうか。

EBSCO や ProQuest など様々な学術データベースが出てきているが、どれに優先的に登録してゆくべきだろうか。またこうした海外の会社と英語で契約書を交わす際、どのようなことに留意すべきだろうか。また海外の会社からの回答には時間がかかることも少なくないが、日頃よりコンタクトを取られている図書館の方に日本支社と話を取り次いでもらえないだろうか。

海外の大手の出版社から刊行される雑誌は、IT 技術を駆使したホームページが用意され、また SNS も活用した積極的な広報が展開されているが、こうした流れにどこまで追随していく必要があるのだろうか。

こうした悩みは研究者からなる編集委員会のみでは解決できないものも多く、他の雑誌と情報交換を行い、また図書館関係や出版関係の方々、URA のの方々からご助言や情報をいただき、また協働することで解決策を見つけてゆくことができないだろうか、そして雑誌のインフラ整備や運営の省力化を進め、雑誌の活性化、充実化につなげていくことができないだろうかというのが、私たちの考えです。

なお、本ネットワークでは、大学や研究機関の刊行する雑誌を広く紀要と定義しています。外部から原稿を広く受けつけ査読を経て掲載する、いわゆる学術雑誌から、査読は行わぬが所属教員のみを掲載するもの、査読を行わず所属教員の研究成果の発表の場とするものまで広く含めています。この定義は、紀要という言葉には同人誌的イメージがついてまわりと指摘され、学術雑誌側からは問題点と指摘されることもあります。ただ、大学や研究機関の刊行する雑誌には、必要経費を部局の予算で補わなくてはならず、常に予算の問題がついてまわるといった課題や、大学図書館やURAの方と連携が取りやすいという積極的な共通点もありますので、現時点ではこの広い定義を用いています。

今回お越しいただいている方々はバックグラウンドがさまざまですので、ご自身の関心事への直接的な回答が少ないかと思います。ただ、編集現場、図書館、出版者、それぞれのお立場からご意見を伺いながら、ともに考える時間とすることができればと考えています。

---